

「外国人留学生のための学生ツアーコンダクター実施予備調査」

代表 中島 隆弘

「外国人留学生のための学生ツアーコンダクター実施予備調査」は、2年前に結成したコミュニケーション研究サークルのメンバー有志で行っていました。

私たちは普段、コミュニケーション論の勉強、テーマ討論会などを行っています。内輪でのルールや行動規則を可能な限り設けず、ゆるやかな連帯からなる学内コミュニティを形成してきました。これは一見無秩序に思われるかもしれませんが、部活動をするには時間の制約があり参加できないものの何か活動をしたい学生、また内輪での細かいルールには抵抗を感じ、部活動に参加しない学生らにも参加の機会があることから、学部学年を超え、海外留学経験が複数回ある学生、都市研究員の経験を持つ学生など、個性的な人物を集める事に成功しています。

今回のプロジェクトは、サークルメンバーのうち、有志10名で活動を行いました。

1、プロジェクトの目的

このプロジェクトの目的は、福岡を来訪された外国の方々に、より福岡を知ってもらおう事です。至極当然のことで、他の方々によって既に行われている取り組みではありますが、以下のような問題が背景に存在しました。

1) 活動背景 留学生からの要望：日常の、日本・福岡を知らない短期の留学生達

この活動を始める以前、とある先生から「福岡を訪れる短期の留学生は、日常の日本の生活を知らない。観光バスに乗って、有名な観光地を回るだけである」という事を聞きました。交通機関・見学地共に、私達を含むごくありふれた日本人の生活空間ではなく、非日常的な福岡や日本、つまり観光地的な事のみを体験して日本で滞在を終えているということです。留学生の目的は、観光ではなく、現地の文化を学び体験することではないでしょうか。しかし多くの短期留学生にとって、その体験を実現するには、ホームステイ以外に方法が無い現状です。

そこで、同じ先生から「短期の留学生を連れてきた際に、普通の福岡を案内できる学生はいないのか」との相談を受けたのが、プロジェクトを始める直接のきっかけとなりました。これが、将来的に目指す「学生ツアーコンダクター」です。

このプロジェクトは、学生ツアーコンダクターになる以前に、留学生が何に疑問を持ち、何が見たいのか。また私達は、どこを案内し、何に気を遣えばよいのか。これらの予備調査と、その調査結果となる「留学生向きパンフレットの作成」を行うものです。このパンフレットは、ツアーコンダクターのテキストとなると同時に、留学生を含む外国からの来訪者が、自力で福

岡を散策する手助けとなることを目指しています。

2) 活動背景 学生からの要望：外国人を案内出来ない私達

メンバーの大半が海外の短期留学の経験を持ち、外国人の知り合いと何らかの交流があります。しかしメンバーの多くが、彼ら外国人を連れて福岡を案内できるかと言えば、残念ながらそうではないのです。

原因の一つは、福岡大学の学生と言えども出身地は県外で、福岡の事情をよく知らないということです。例として交通事情を挙げます。本調査中に起きた事ですが、取材帰りに天神から福岡大学までのバス乗り換えを誤り、南区へ行ってしまうという事件がありました。当人は国際交流会館に入寮し、外国人から福岡に関する質問を多く受ける身なのですが、福岡在住1年目。福岡を案内したい思いとは裏腹に、交通事情がわからないのです。

原因の二つめは、福岡の交通事情が複雑であることです。市内の移動には鉄道が無く、バスに頼らざるを得ない地区が多くあります。特に、百道浜や香椎浜の留学生会館、キャナルシティに行くにはバスでの移動が必須となります。しかし一方で「バスの乗り間違い」などは、福岡市内出身の方々にも経験があるのではないのでしょうか。

これに対して本来案内の機能を持つべきであるはずの、バスの案内センターは朝9時前と夕方以降はクローズ。またバスドライバーも、あまりの路線の複雑さに「自分の担当地区以外は分からない」ということも多々あるそうです。これでは福岡を知ってもらう以前に、道に迷った挙げ句、見学時間が減ってしまい、案内者はおろか、福岡全体に対してマイナスイメージを抱かれてしまう恐れがあります。

原因の3つめは、地元の文化遺産等に対する無知です。博多祇園山笠や博多部のお寺街について知ってはいても、説明できるほどの知識がありません。また一般の観光雑誌では、スポットのお勧めは充実していても、背景まで説明がなされているとは限りません。

つまり、福岡での移動手段と、各案内スポットの背景を、案内者が知っている必要があると考えました。

3) 活動背景 社会からの要望：外国人が単独で動きにくい街、福岡

もちろん、単独で福岡市内を周遊する外国人の方々も存在し、福岡の街としても、地下鉄や100円循環バスなどの交通機関利用者のためにハングル表記を行なったり、博物館・資料館などで日・英・中・韓4ヶ国語のパンフレットを準備するなど、ツアーではなく単独で市内を周遊する外国人に向けた取組みを行っています。しかしながら、その取組みも、未達成な部分が多く残されています。

例えば、外国人も多く利用する、福岡市内100円循環バスに乗務経験のあるバス運転士の方によると、両替機（各国で仕組みが違う）をめぐるトラブルや、外国語表記の不足からくるバ

ス乗り間違え（バスの行き先、バス停共に全て日本語で書かれている場合がある）など、よく発生するとのことでした。

つまり、全体としては外国からの訪問者が戸惑わないような街づくりが進んでいるものの、個別のバス停などの細かい部分や、異なる交通機関間の乗り継ぎ、飲食店案内などの事業者ごとの枠、店ごとの枠を超えた総合的な案内については、取組みがなされていない状況です。

これらを、「外国人留学生が困っている事」という枠でくくり、その対策を私達学生が行う事により、事業者や広告主などの利害に左右されない利用者視点での案内が可能となるのです。

これらの理由から、ターゲットを「一定期間以上滞在する（数日間の滞在ではない）」「レジヤ施設よりも文化や芸術に関心がある」外国人来訪者（これらの条件を満たすのは、主に留学生となります）に絞り、パンフレットの作成に入りました。

2、活動計画

1) 製作の流れ

各編の完成までの流れは、掲載項目の決定、取材、取材先のデータをもとに掲載する文章の作成、掲載写真の決定、決定した内容をもとにパソコンへの打ち込み作業、各編集内容の統一性の確認、修正、そして完成という流れでした。

2) 掲載内容の選定について

住んでいる地域の歴史や慣習を知って欲しいという願いから、福岡の歴史・文化編、長期で留学してきた学生は、ホームシックにかかることもあるだろうと考え、そのための対処法を紹介したホームシック対策編、留学生が個人で活動できるための材料としての北九州編、日本製品や電気製品の購入場所を教えるショッピング編の4編のパンフレットを作成することを計画しました。各パンフレットには交通機関の利用の仕方と留学生のための情報機関の案内の折り込み記事も共通に入れるようにしました。

3、実際の活動

1) 留学生からのヒアリングによる内容変更

作成途中で、留学生の意見・要望を幾度も聞き、構成の変更を行いました。まず、パンフレットの形式に関して大きく見直しを行いました。3つ折りのパンフレットを4編も持っている人は管理が難しく、持ち運ぶ際にも不便であること、4編とも持っている人は折り込み記事を4つ持つという無駄が発生すると考えました。そこで2つ折りにし、全ての編集記事を1冊にまとめるという形式に変更しました。次に、掲載する内容の見直しを行いました。福岡の歴史・文化編と北九州編は残し、留学生が日本人学生と同じように充実した大学生活を

送りたいという願いがあると聞き、詳しく留学生のニーズを調査して内容を変更しました。

2)パンフレットの目次 箇条書き

次の内容を記載する事を最終的に決定しました。

留学生が一人で自由に福岡の街を歩けるように、地下鉄・市内バス・市外へ行くための JR・高速バスの乗り降りの仕方。

各主要大学のある地区と、天神・博多への行き案内。

留学生に役立つサイトと、交流機関、情報の入手場所の案内。

福岡の歴史・文化を知るための第1歩として、是非訪れて欲しい博物館、庭園などの紹介。

長期留学する学生が、日本でも少し遠方へ行く事になれて欲しいという願いから、門司港レトロや下関などの関門エリアの観光、産業施設の充実した八幡エリアの観光を掲載した北九州の紹介。

日本人学生が行うように、新書でなく古本を購入するための古本屋の紹介や、各国の洋書が購入できる本屋の紹介。

福岡ではなかなか運動する場が見つからないという意見から生まれたスポーツ施設の紹介。

手軽に日本食を味わう事ができる。または、日頃は感じる事のできない日本らしさを感じる事ができる場所の紹介。

天神地区の地図、福岡市全体の地図、緊急連絡時の連絡の仕方

4、活動結果

1)パンフレット配布について

途中の幾度にも渡る形式の変更や編集内容の変更によって、作業が遅れましたが3月中に最終の校正を完了し、4月以降に順次配布していきます。

なお課題であった英語表記については、ヒアリング等を実施した外国人留学生の協力を取り付けており、これから進めていく予定です。

2)今後の展開

製作中にお世話になった、西鉄の方や寮の留学生などから、「まだできないのか」との期待の声がありました。また、メンバーのパワーポイントの習得やイラスト技術取得に対して、取材したバス運転士から、個人的にはありませんが「市内のバス路線図の英訳」について相談が寄せられています。外国人にもっと気軽に動いて欲しいというニーズが確実に存在し、私たちのパンフレットもそのニーズに答えており、さらに便利なものを作ってほしいという声がある

ことが分かりました。今後の課題としては、そういったニーズへの対応、つまり何を作ればよいのかという事を更に調査し、反映させていくことです。

5、感想と反省

1) 様々な意見を頂き、右往左往しました

製作中・また報告会において、様々な視点や実体験に基づいたアドバイスを頂戴する事ができましたが、その頂いた意見を取捨選択しなければなりませんでした。中には「学生らしく」と「フォーマルに」、「観光は不要」と「レジャーの案内は必要」というような相対峙するご意見も頂き、そこを全て取り込もうとして、右往左往、果ては完成の3ヶ月延期という事態になってしまいました。

しかし、それらのご意見は「外国を訪問した際の不安」について、同じ不安を多くの方々が経験されており、工夫が必要であるという想いが、頂いたご意見の一つ一つの背景にあると私達は理解しています。

2) 国際都市フクオカの曖昧さ

頂いた意見にはバラツキ、言い換えれば広範囲に渡ったご意見があります。それは、フクオカが観光のターゲットをどこに絞っているのか、都市の特徴をどうアピールするのかなどが明確になっておらず、「アジアの国からの距離的な近さ」以上に特徴が無いという状況を示しているのではないのでしょうか。

例えば、京都であれば「歴史」、黒川であれば「温泉」「自然」というように、特定の都市資源・文化について非常に個性的であり、他には模倣ができません。これらの都市は、そのキーワードに基づいた観光開発や街づくりを進める事が可能となります。

パンフレットの作成を進めるうちに、有名だが、どのように紹介してよいのか、悪戦苦闘した場所が幾つもあります。北九州市内であればリバーウォークがその一つです。外国人が多く来訪し、ショッピングが楽しめる場所ではありますが、福岡市内のキャナルシティとどのように違うのでしょうか。北九州市観光協会において「みどころ」の一つとなっていますが、あまり北九州らしさを感じる事はできず、他の地域の施設でも代替が可能だと感じました。

これらの施設を掲載するか否かについては、メンバーの中でも意見が割れたところがあります。今回そのほとんどを掲載する事にしましたが、「福岡ならではの」、「日本らしさ」という点に欠ける場所で、福岡全体へどのような特徴を持たせることに寄与しているのか疑問が残ることから、果たして外国人留学生にとって行く価値があるのか、反省する点です。

パンフレットを作成する過程において、「福岡」とはどのような街であるのか。外国人に福岡をどのように伝えればよいのか。この一番単純な問いに私達が答えられない事を知りました。

この福岡のイメージ作りについて、施設の建設や整備という面から今の私たちは携わる事はできません。しかしながら、極ミクロな需要と人数であるけども、福岡を知りたいという思いが強い留学生の方々へ対しての広報については、私たちの活動が基となることができます。

福岡がどんな街であるのか、まだ私たちは明確な答えを持っていませんが、在学中を通して答えを探し出し、多くの方々に福岡を紹介できればと思っています。



留学生のための 学生ツアーコンダクター 予備調査

パンフレットの内容

歴史・文化編

- ・歴史、年表
- ・福岡の歴史
- ・Zoom up! 博多
- ・Zoom up! 大宰府

北九州編

- ・産業・環境・歴史
- ・小倉の観光・食事
- ・門司港、下関
- ・アクセス

ホームシック編

- ・心も体もリフレッシュ
- ・自然で癒す
- ・運動してみる

サポート編

- ・交通機関を利用しよう
- ・Information guide
- ・緊急事態
- ・福岡 MAP